

票 議 按

明治十八年二月一日

校長

同

主任

議合

定

乙次れニ多々

明治十八年二月八日刻今第ニ取引事務基  
本明治十九年本校第ニ年額調製刻此集達  
凡事間可銀百五六十個付支事

丁寧者中明里校

母勢部

四

中

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

控

滋賛蘇尋常安之成色報

滋賀縣學常守學校第十年報（明治廿九年）

目次

第一章 章	△學校設置、緣由
第二章 章	・敵首、追加
第三章 章	・事務員、故
第四章 章	・學校、該備
第五章 章	・入學志願者、吹吸
第六章 章	・生徒、增減
第七章 章	・學級別步陞、數
第八章 章	・府縣別郡別生徒數
第九章 章	・生徒會成員快況
第十章	・生徒學業、進否
第十一章	・試験回績、概要
第十二章	・卒業生、數
第十三章	・卒途退學者、數
第十四章	・生徒卒業後、快況
第十五章	・寄宿舍、事
第十六章	・器械現五數
第十七章	・器具現五數
第十八章	・新立、舊卒畢業后、狀況

一章 本校沿革 設置の略由

茲ニ本校ノ起原ヲ繹 又ニ明治九年旧鹿根藩主井伊直憲  
伯友有志者等相謀リテ上等小學ノ教育ヲ施サシケ萬ソニ新ニ  
校舎ヲ五番町ニ設ケ之ヲ鹿根學校ト称ス翌年改丁リテ滋賀縣廳  
ノ管理ニ屬シ之ヲ傳習學校ト名ケ後マタ初孝印範學校ニ改ム  
小學教育ナルベキ者ヲ養成ス而ニテ上等小學ノ科程ヲ設ケルコト故ノ  
如レ十三年 座校ノ議起ル是ニ於テ嚮ノ有志者大ニ之ヲ憂ヘ官  
請フテ再ヒ人民ノ共存トナシ鹿根會中學校ト称シ基ニテ中學  
教育ヲ行ヒ傍ラ尚ホ上等小學ノ生徒ヲ教養ス當時本校ノ目的  
和謹詳ノ書籍ヲ以テ高等ノ普通堂科ヲ教授ス在リ無ニ及漢學  

滋賀縣尋常中學校試用械

其牛シウノ英學ヲ又キキタ完全ノモノト称ス可ニヤ十五年二月ヨリ前ノ  
諸科ニ斐則英語科ヲ加フナ七年 中學校令ニ基キ大ニ教則ヲ改正  
レ傳學偏重ノ弊ヲ除キ英語科ヲ正則ニ改ム十九年四月勅令及又訓  
省令ニ基キマク大ニ教則ヲ改正ス全年八月有志者再ヒ官ニ請  
テ本校ヲニテ明治二十年ヨリ縣立尋常中學校トナシノ校舎備  
品等盡ク献納セシコトヲ願フ縣會之ヲ決ス是ニ於テ明治二十年  
四月本校ヲ改メラ滋賀縣尋常中學校ト称ス全月セリ與合  
萬百十五号ヲ以テ本校職制ヲ定シし五月四日三萬二千六百二号  
ヲ以テ本校事務章ヲ定シし七月二日三萬三百八十六号ヲ  
以テ校長職務尋常課程ヲ定シし旦一時 営利後舍狹隘ニテ生徒ヲ

歐風

答へ一足一文ニサ一年八月新ニ校倉ラ奉申候。又二葉ノ翌廿二年四月  
切送リ之ニ移ルコシ現今ノ校倉ナリ。尋ラ前校倉ラ本坂ノ側ニ移レ  
テ寄稿舍ニ充ツ

▲ 漢文書・專常中書狀 欧風用紙

第二章

本年未教員ノ宣詔ハ十一名ニテ外教論翁校長心得考各教論三名  
助教論二名教師囁提ニ名爵外國人立名ナリ西洋宣科議院傳於某  
及記ノ如シ

受持学科	賞	水	停外	職名	姓	名	族籍
倫理、譯文、歴史	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
算術、地理	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
英語、歴史	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
國語、漢文、歴史	白虎之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
数学、理化	白虎之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
体操	白虎之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
社会、地理	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
算術、地理、算術	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
国画	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
習字、正字、算術	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
算術	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
體操	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
習字、正字、算術	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民
算術	金之助	水	松輪安政	今井恒郎	三重郡	平氏	民

第三章

事務員、教

本校事務員、教員名簿。附註。皇校長心印。丁  
喜。書記。劉石。左表。如。

職

名

俸

給

名

號

籍

教

論。皇。政

金。之。公。圓

公。丹。惟。郎

大。公。鑑。生。後

大。公。鑑。生。後

學

長。教。員

劉。風。重。鳳

大。毛。芳。太

大。公。鑑。生。後

大。公。鑑。生。後

公

記

全。城。圓

大。日。寧。生。主

大。公。鑑。生。後

大。公。鑑。生。後

## 第四章 學校ノ設備

本校ノ設備、乍ラ逐フテ完全ニ赴ケリ。校地、相當ノ規模ヲ有シ。道德上、勿論衛生上亦害ナシ。構内體操場ノ如キモ亦相當ノ地積ヲ有シ。器械、略整備シ列ニ。兩天體操場アリ。本校舍各室、  
光線ノ透入空氣ノ流通ニ簡セリ。通常教室、數七十アリ。雖々學生ノ少數ルト他ノ都合上トヨリ一ヲ御遺影奉置室トニ。書籍室ト  
ナニ一ヲ普通室トナレ。空室タリ特別教室、物理化學室、博物  
室、圖畫室一アリ。其他ノ諸室ニ講堂書指室、器械室、戎器室、書籍  
室、教務室、應接室、生徒休憩室、食堂、小便室、物置室等ア  
リ。而シテ之ニ應スル墨具類、大抵完備セリ。獨り寄宿生ニ至リテ  
、第十五章ニ於テ記述セルガ如ク廢校ノ製用セルヲ以フ構造不完  
全ニシテ且狹隘ナレハ寄宿舎ノ修築、月下旬ノ最急務タリ。

第  
書

明治廿六年福岡縣尋常高等學校設置大

水戸公設論、石表、如レ

星　名前　商校　馬鹿　唱歌　机　腰　手　ト　山　公脚　脚　成　背　身　體　昌

奉　星　一　一　一

端　室　一　一　一

生　故　坐　九　心　八　三　八　七

物理　化　幽　子　室

氣　城　室　一　二　二　一　一

記　參　室　一　二　二　一　一

傳　物　室　一　二　二　一　一

舊　籍　室　一　二　二　一　一

重　參　室　一　二　二　一　一

故　屋　室　一　二　二　一　一

應　塔　室　一　二　二　一　一

食　堂　一　二　二　一　一

生　活　休　憩　室　一　二　二　一　一

享　樂　室　一　二　二　一　一

物　置　室　一　二　二　一　一

奇　怪　室　一　二　二　一　一

天　主　教　室　一　二　二　一　一

神　聖　陽　明　室　一　二　二　一　一

使　神　室　一　二　二　一　一

一一一

一一一  
一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一  
一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

一一一

五

本年入學志願者、狀況

本年入學志願者、狀況  
學生一百零二人、許可者一百零二人

陸表

學生一百零二人、許可者一百零二人

數科

一〇六一

一七八八一二二三四一

一年級

二三六

三三六九一二八四三

二年級

四三二

三三二十九二七二七二

三年級

五五

二二二七二八二二

四年級

九三

二二二七二八二二

五年級

九三

二二二七二八二二

通計

九三

二二二七二八二二

滋賀縣尋常中學校

第六章

生徒、増減

本年不生徒、現員一百六十八名。之テ昨年未現員、凡三十七名。各ノ減員ヲ観、水年入學者三十九名。在院生三十名。退院者十七名。四年畢業者、七十名。故本年中、退校者三十九名。故ノ原因名ナリ左ニ昨年不ト學年別比較表。

揚

明治廿九年十二月玉

生正年十二月東生徒員數比較表

二年生三年生二年生三年生四年生五年生六年生

級	別	正年生	四年生	三年生	二年生	一年生	半年生	一年生	二年生
本年正	一九	一八	二〇	二八	一四	三〇	四一	三七	一九
前年正	二八	二一	二九	三〇	一四	一三	一七	一九	一三

校比

合併

三

此

二

一三

九

一三

第七章

學級別生徒數

本年生徒現員八百六十九名。之江大學四年生  
徒八名。四年生數以名、三年生數以名。二年生  
徒四名。一年生多於二名。護科生十人。則計九名

ノ如レ

級別  
四年生四百三  
三年生二年生一百二十  
二年生三十  
一年生二十四  
護科生八人  
計

本年生

一七

一八

二〇

二八

九四

三二

二九

第八章

現五生徒郡別入員表

郡	別	員	數	郡	別	員	數
滋賀	郡	城三八人	該	郡	別	員	數
衆太	郡	九人	改田	郡	別	員	數
野洲	郡	廿人	東武	郡	別	員	數
神崎	郡	卅人	西河	郡	別	員	數
蒲生	郡	城三人	伊香	郡	別	員	數
琴知	郡	七人	高島	郡	別	員	數
大上	郡	五城八人	甲賀	郡	別	員	數
			七				
山口	縣	三三八人	香川	縣	別	員	數
鳥取	縣	四八八人	高知	縣	別	員	數
島根	縣	四八八人	德島	縣	別	員	數
奈良	縣	三三八人	岐阜	縣	別	員	數
和歌	縣	三三八人	東京	縣	別	員	數
三重	縣	三三八人	愛知	縣	別	員	數
三重	縣	三三八人	三三八人	三三八人	三三八人	三三八人	三三八人

## 第九章

### 生徒養成の状況

方今學問、弊、ト、レ、チ、單ニ知識ヲ注入スルチ以テ鉛事畢レリト、ナスカ如キ誤想ヲ抱クモノ、教育者及學生間ニ往々之ヒアリ、遂ニ教師ハ業ヲ賣リ學ヲ鬻ル、以テ其職分ヲ盡セリトナレ、従テ親摶、教授ヲ施スコトヲ忘レ、生徒モ亦教師ヲ見ル、路人行商ノ如リ偶ミ一二不熟ノ知識ヲ得テ學生、本文ヲ忘レ、輕佻浮躁、風ヲナシ、何ノ爲メニ學問スルマ、心ヲ忘却し、一旦定規ノ業終ルニ及ヘハ、以迄トレテ其世ニ立ツ所、以テ知ニス甚、モナハ其身ヲ立ツルニ必要ナル學術ヲ以テ身ヲ傾ケ産ヲ破ルノ具トナレ畢ルニ至ルモノ鮮、ナカニ、是必竟俗ニ所謂「生兵法大疵ノ基」ノ如ク一二、知識ヲ得ルモ運用ノ大本タル心思訓練、之レキノ致ス所ニ外ナラス、而レテ其原教育ノ仕ニ当ルモノ、用心足ラアルニ起ラス、ンハアラス、此弊下凡ト矯、ナントスルニハ、德育ノ獎勵ヲ務ムヘキハ勿論、コトナリト、虽ニ現時中等放科中ノ倫理ノミナス、テ、滿足スヘキニアラス、何トナシハ、倫理ハ人間トシテ存在セル以上ハ、時ト境ト、問ハス常、懶惰、坐卧、率田セリルヘカラワルモノナレ、凡他ノ諸學科ト比肩レテ、一科トナレケルソ以テ学生ノ脳中自ラ一科ノ學術タルノ感ナレトセス且中等學科教授上、於テハ階級ニ従テ教授、殊深アルハ免レガ所ナルヲ以テ其教授ノ高尚ニ進ムニ及ヒテハ、日常功実、行焉ト幾分カ懸隔セル、如キ誤想ヲ抱クニ至ルハ、亦勢ノ免レ難キ所ナリ、是ヲ以テ小官就務、以東各級特別ノ教授ヲ施スト、同時ニ又例丹一二回全級生徒ヲ講堂集、古聖賢ノ言行、平常適切、涉レモノヲ講話レヌテ、一階級教授、弊ヲ矯メ、倫理ハ學校内ニ社リテ、

勿論學校外ニ在リトモ常ニ遵守ニヘキモノナルコトヲ注意  
レ而ヒテ殊ニ倫理、評点ヲ嚴ニシ以テ其領史平離最土學  
科タルノ觀念ヲ與ヘカリ以上、教授上ヨリレテ生徒、道德  
ヲ進ンシト、主意ナシニ貞誠ノ德尊耳ナシ貞誠ノ人物ヲ  
養生スルテ此ノルヲ以テ足レリトヘヤカラス徒言空レリ行レス  
必人ヲ待タサルヘカラス是ヲ以テ小宦自其力ヲ量ラス  
衆教負シ戒飭レ相共ニ心ナ悦ヘカナ歎セ身ヲ以テ其  
言ヲ寔ニシ以テ生後、操範タラレコトヲ期し後、内外ヲ論  
セヌ事ニトヒテ事ニ此ニ従ヘリ廢ソハ學問、更價ヲ發揚  
レ堅実有爲ノ氣象ヲ養成シ彼輕佻浮躁上ヨリ蔽キ勿  
チ忘ル、カ如キ不祥、患夙ソ未萌ニ防禦キム。其他事  
ニ觸レ類ニ接し常ニ心思ヲ堅固ニし習慣ナ善良ニセシ  
ヲ訓論指導セリ。又体操行軍柔道、蓮鄭等ニ於テ  
更練力、發達ト共ニ剛毅ノ氣質ヲ鍊成セリ。注  
意セリ。

以上ノ方法ヲ以テ学生ノ德行ヲ進獎し心思ヲ堅実ニ  
スルノ間一考ニ於テハ各學科正當ノ知識ヲ得セしシ  
コトヲ勉メタリ後來、教員組織ニ於テハ受持教員其  
人ヲ得カリシヨリ自不得意、學科ヲ受持ワカ如キユ  
トアリテ學生ノ不幸少カラカリレカ九月以降ニ三教員  
ノ文仕アリシヨリ學科ノ受持略完成レ告專闇、學  
術ヲ以テ教授ニ致々タレハ智者ノ衷ニ於テモ亦当、而  
目ヲ一新スルヲ得ヘキカ

卷之二

第十一章

支那の政治、社会

方、更に文部省が、支那事務司に之を付託し、所長、内閣、事務、  
支那以テ多義、英語に上、下、前半未収減を乞ふト雖  
ま、實力ニ於テ、一脉、上也、先づ済、其ノ孔門、孔子、根而  
至るヲ有也。

後即ち、庚子事變之後、收之承とぞトドケ、  
乃、あゝ軍、ニ、子孫、ト、之を教へ、朱リシル乃、之、所、之は、方、  
重地也、アリシテ、之を、ト、之を、宣傳、宣傳、窮りも、此正猶言、  
之シナ、青、布、之、前、法、某、於、其、事、之、派、減、了、被、宣、  
上、成、情、被、出、重、見、

國、臣、多、給、予、ナカ、シ、次、十、日、其、如、之、以、被、ク、礼  
あり、既、之、稱、考、セ、ル、之、

漢文紀、於、是、民、相、各、事、方、ア、レ、確、有、力、乞、レ、

且、在、中、經、事、官、事、不、相、稱、之、勸、セ、レ、解、秋、其、之、自、  
嘗、以、其、事、ア、リ、シ、テ、又、四、月、歸、叶、之、又、更、一、三、年、復、陞、  
シ、移、主、府、也、力、多、不、可、之、ソ、ノ、リ、初、發、立、其、內、其、外、  
山、川、津、口、事、比、シ、極、レ、稱、號、珠、作、之、如、是、最、

效、若、ス、ミ、シ、  
善、治、叶、於、毛、其、種、所、奉、而、乞、之、降、汗、其、依、減、乞、加、  
ニ、日、麗、之、事、力、極、レ、五、少、セ、ル、之、

始、變、事、其、經、訛、拉、之、事、其、變、來、不、若、之、甚、多、之、不、  
被、九、月、乞、事、又、于、更、替、之、之、諸、事、皆、之、之、不、  
多、其、事、為、易、也、其、事、之、事、其、事、高、直、立、其、事、事、  
計、其、確、定、其、事、其、事、之、力、乞、之、之、成、之、之、必、取、  
父、兄、三、角、也、其、事、也、其、事、之、事、其、事、其、事、之、事、

第十一回

試験の結果

本年施行セシ試業ノ成績、前年ニ於ケル成績、比較スレバ、其各級評点平均教學年試業ニ於テ一点一分學期試業七月ニ於テ三點一分十二月ニ於テ四點九分ノ低減ヲ見ル、又學年試業ニ於ケル全級生徒中及養者百分率ニ於テ百分ノ六ノ減少ヲ見ハ斯ノ如キ減少ラ未セル原因ノ著明モノヲ察シ、學年試業ニ於テ体操科ノ試業及々授怎方法ヲ改良セレト、幾何、代数、三角、物理ノ授持教員ノ更迭アリシニヨル學期試業七月ニ於テ、本期ノ始ノヨリ各學科ノ教授法ノ改良ヲ計リタルト、代数、幾何、三角ノ教科用書ヲ變更セシニヨル、其十二月ニ於テ、倫理、漢文、歴史、地理、博物、動物、植物、及ビ圖畫ノ諸科授持教員ノ更迭アリシニヨル、凡ソ試業ノ評点、其程度方法ノ如何ニヨリテ増減スベキモノナレハ、本年ノ各試業ニ於ケル評点、前年比較シ概不低減ストキモノナレハ、本年ノ學業ノ退歩セムモノト認定スカラズ、何トナレハ、彼授持教員ノ更迭ニヨリ學



生徒員比較表

學年試業

年六月

年五月

年四月

年三月

年二月

年一月

年十二月

年十一月

年十月

年九月

年八月

年七月

年六月

年五月

年四月

年三月

年二月

年一月

年十二月

年十一月

年十月

年九月

年八月

年七月

年六月

年五月

年四月

年三月

年二月

科別年表

廿九

七〇

廿三  
廿六

明治

試業

業成績

比較表

年一月

廿五

廿四

廿三

廿二

廿一

廿

十九

十八

十七

第二年級

第三年級

第四

第五

第六

第七

第八

第九

第十

第十一

第十二

第十三

第十四

第十五

第十六

第十七

第十八

第十九

第二十

第二十一

第二十二

第二十三

第二十四

第二十五

第二十六

第二十七

第二十八

第二十九

第三十

第三十一

地理國語

英語美術歷史數學

地理博物生物植物等課

理化物理化學體育音樂

算術附註各科

全科試卷評述及平教數比較圖

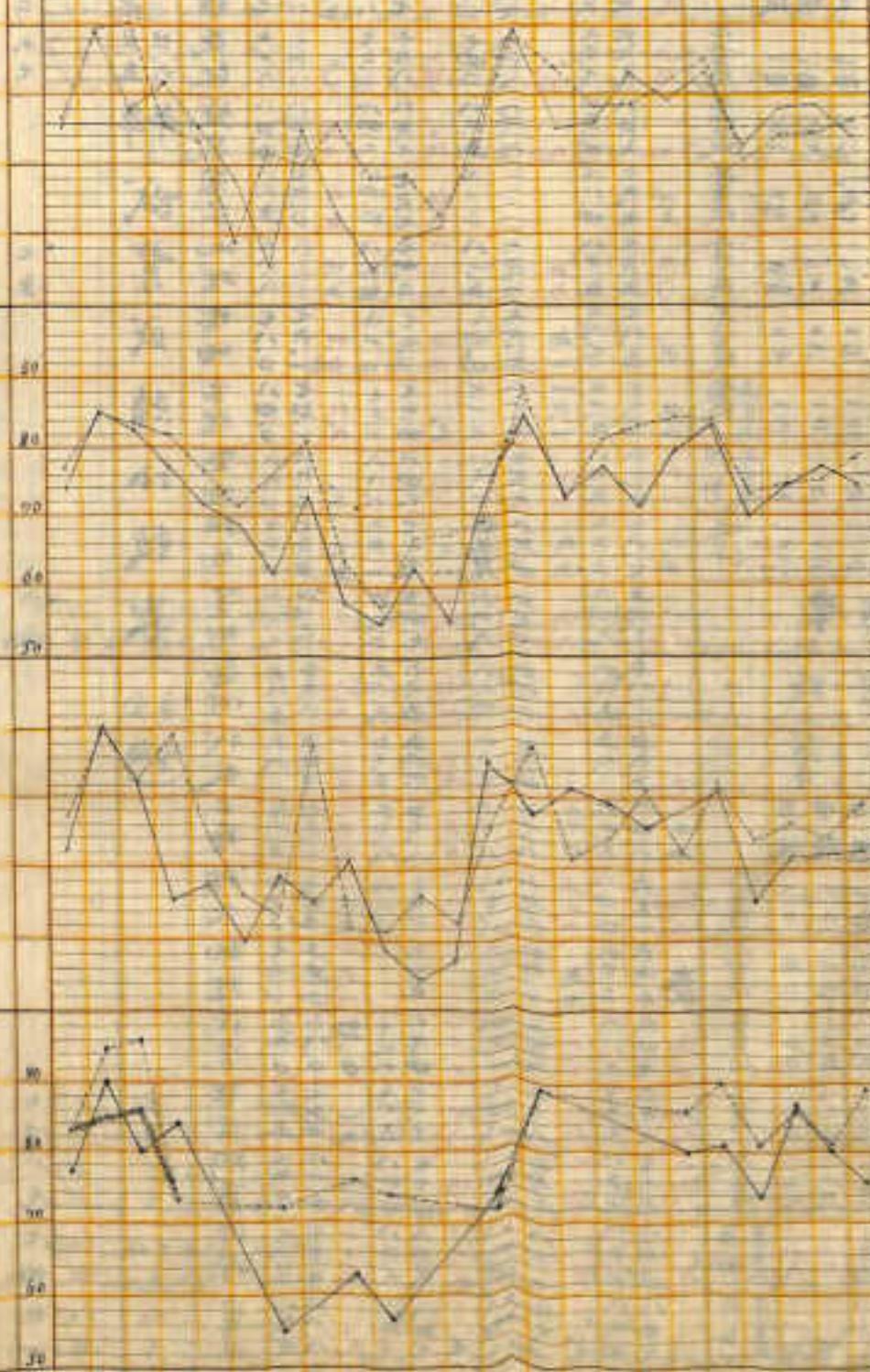
倫國英芝歷農地學物理化學生物物理學文法語德理  
等斯荷教角化學物理學生物物理學文法語德理  
均席席等學物理化學生物物理學文法語德理

1926年秋季試卷

1926年秋季七月期試卷

1926年秋季十二月期試卷

1926年春季學生成績



士官試験合格にて一度底堅う時代ト確立學者

もう少し前ま此レテ大進歩せんえへ

物語一あひにいはばせあえきまう

理心初めはあもあひ壁しつ物語もり瓦あは子役ノ  
うえいとしカ大月半すすむ宿泊ヨリシテ後而セ  
しきルナラノ船内に不居らああと人多モシ  
體操状況高々此一枚ニ直歩もえん民衆の身操等  
くえきが所てて直見しキ。はあらかじめ。彼の事誤解し動  
エエレハ該北三島崎スハ、彼ナキニアヌリ。ノア今ヨリヤヒ等  
おち家ハス。消失セラ。ゆく珠の空城體操。始もまき向日  
ウタメツノ力保アリ。以直連ノ取テ。其色紫朱アリ。及腰附ノ字和シテ。200年。比シテ  
まナレ故間あじえんえん

第十二章

卒業生後、教

本年三月、輿學卒試験一級、卒業せし者、拾七名  
ニシテ其人名、五記、如也。

序	縣名	族	籍	姓	名	年	數
東	郡有	平	氏	河	田四十一	十八年九月	一
滋	賀縣	士	族	水	川行藏	大英二年四月	一
兵	軍縣	平	氏	龜	石久太郎	十七年八月	一
濃	賀縣	士	族	大	久保藤吾	十九年二月	一
山	所縣	金		山	下三郎	二十一年二月	一
岐	阜縣	平	氏	吉	田秀太郎	十八年	一
滋	賀縣	平	氏	中	村留人郎	十六年四月	一
兵	軍縣	士	族	秋	山辰之郎	十八年二月	一
濃	賀縣	平	氏	中山	好次	十八年	一
山	所縣	金		弘	也丘次郎	二十一年三月	一
岐	阜縣	平	氏	大	神山道	十八年七月	一
滋	賀縣	平	氏	伊	藤惣藏	十九年八月	一
兵	軍縣	金		藤	山銀造	十八年七月	一
濃	賀縣	平	氏	羅	舟角助	十九年	一
山	所縣	士	族	永	田翁吉郎	二十一年六月	一
岐	阜縣	平	氏	吉	田豫次郎	三十一年三月	一
滋	賀縣	平	氏				

第十三章

半道逃亡者有數

本年中半道逃亡者。總數。四八五名。二月。三月  
全。病氣或。事故。爲。逃亡者。元。半。半。半。

其退陣者。級副。及。月別。半。半。半。

改副。一月。二月。三月。四月。五月。六月。七月。八月。九月。十月。十一月。十二月。

五年級

四年級

三年級

二年級

一年級

學科

體育

公武

軍械

機械

工程

農業

生物

地理

歷史

政治

丸

さく 生徒卒業後ノ状況

本年三月本校ヲ卒業セシモノ十六名アリ内第3高  
等中學校ニ入學セシモノ四名東京工業學校ニ入學セシ  
モノ三名高等商業學校ニ入學セシモノ壹名東京國學  
院ニ入學セシモノ壹名東京工手學校ニ入學セシモノ壹名  
商業ニ従事スルモノニ名教職ニアルモノ二名ニシテ其餘  
ノ二名ノ方向未定ナリ



滋賀縣尋常中學校試用紙

第 二 四 宿舍の報告

寄宿舎ハ元彦根學校ト称セレ際ヨリ使用シ未リタル古健物ヲ修補充用シタルニ以テ不充分、点少カニス従テ設備如キモ完全トイフニ得ス殊ニ舍屋・狭隘廿四ト寥寂之ヨリ故ニ漸時舍屋ヲ改築ヒ今後益々寄宿舎ノ整頓

大ナ謀ニト期ス

本年生徒、出入、入舍拾五名退舍八名ニレテ多クハ家事工、都合ニヨル而レテ本年未調査舍生三十六名ナリ舍生ハ概ニ温純シテ能ク舍則ヲ守リ命令ヲ遵守ス又通

學生ト比較ハ學術工、於テ、著シキ優劣ニ見ル能ハズ余

モ精神的実力舉

ニ至リ、遂ニニ通學生、上、出づルヲ確

認スリトト博

編成ハ在舍生十三部、分十各ニ部長壹名ヲ置ク

滋賀縣尋常中學校

舍監ハ二名ニシテ何レモ教諭助教諭、内ヨリ兼務ス

本年九月以降寄宿舎内、改良ニツキ着々歩ツ追シ今尚オ草新中ニ在レハ万般、奏効ノ見ルニ得カルモ内部整備及生徒危質、渠更ヒタル等就中其ニ効果、著

ナリ認ム

修業於



卷之三

器械現量數表

本校器械現量數至博濟此較左表

易

目

日光年三月五日計數本年三月五日現少數

增

減

刀 音鑼 钟

二〇

二〇

二〇

理 光 鑼

一九

一九

器 聰 磨 鑿

二九

四四

二〇

機 刀 鑿

一一九

一二四

一

水 鑿

二二

二三

廿

化 儿 器 械

五四八

六四

一

唱 歌 器 械

一

一

廿七

画 學 器 械

一

一

廿

算 學 器 械

一二

一

廿

測 量 器 械

一

一

廿

測 物 備 械

三八七

三八八

一九八

傳 脚 器 械

古九四

古九四

一九八

本 傳 器 械

古九四

古九四

一九八

各 種 填 形 械

二

二

九

鑄 物 標 小

四

四

九

動 物 標 年

二一

二九

八

農 務 器 廢

〇

〇

〇

第十八卷

器具現五數表

本校器是正革後出現五數及增減此較五表，

如

西同紋量火較品月紋量火鐵

車子火二〇輪具四九二六

椅棚四八三三二印刷器印刷文具一四二

印版四九七度量衡一書直假具三印刷

瓦燈器大二二時計一書直假具一

火器一九一五九生徒寢具一二〇時計八

鐵鍛器火六帷幕四八三〇書直假具一

桶具二九二帳簿四九一書直假具一

桶具八五啟授用具八六一

桶具八六三

刺史・生徒・在學・宿處

年月日數有聲隊

弘平七月廿四日

班人

高等中學校入学者(高等商業學校入学者)内  
中音、樂器二種、教員、獨角、絃、笛等

弘平七月廿四日

班四人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等

弘平七月廿四日

班四人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等

弘平三月廿四日

班五人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等

弘平三月廿四日

班五人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等

弘平三月廿四日

班四人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等

弘平三月廿四日

班四人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等

弘平三月廿四日

班四人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等

弘平三月廿四日

班四人

高等中學校入学者(高等商業學校入  
者)中音、樂器二種、教員、笛、絃等